

羅 貞一<sup>1</sup>・岡田 憲夫<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 京都大学工学研究科

E-mail: [njiworld@drs.dpri.kyoto-u.ac.jp](mailto:njiworld@drs.dpri.kyoto-u.ac.jp)

<sup>2</sup> 京都大学防災研究所

本研究は、地域コミュニティの地域防災力の向上を目的にする参加型行動計画づくり技法である「四面会議システム」の海外地域コミュニティへの挑戦について述べる。四面会議は、「SWOT分析」、「四面会議図」、「協働ディベート」、「行動計画図」で構成されている参加型ワークショップ手法で日本では京都市中京区自主防災会の行動計画づくりなどに活用されている。本研究ではインドネシア、メラピ火山周辺の地域コミュニティを対象にした地域コミュニティレベルの協働的な行動計画案づくりを目指す四面会議ワークショップの実践事例を紹介する（2009年）。四面会議は2ヶ月を計画実行期間にする地域コミュニティレベルのSand Mining Managementの行動計画案づくりのために導入され、本ワークショップでは地域住民が参加した実現可能な行動計画案が作成できた。

キーワード：四面会議システム，住民参加，地域防災力，行動計画，Sand Mining Management